

復興に向けて一心の筋肉を鍛える

東北学院理事長

平河内 健治

震災にみまわれた方々に心よりお見舞いを申し上げます。東北学院生・同窓生とその家族友人、そして、東北学院教職員とその家族友人の皆様の中にも災害の犠牲者が多くおられます。また、避難所生活を余儀なくされた方、肉親や家を失った方もおられます。衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

想定外の大規模で、しかも広域に渡る被災に、かの地この地で遭遇し、それぞれ固有の非日常生活を強いられ、悲しさ、悔しさ、切なさ、申し訳なさ、もどかしさ、苛立ち、怒り、歯がゆさを感じておられることと想います。余震の怯えもあります。原発事故による放射性物質拡散の不安も続きます。大多数の被災者が大多数の被災者をケアせざるを得ない常軌を逸する状態がいまだに続いております。

このような時に、「こらえる」ことも、気持を強く持ち、踏ん張ることも大事ですが、共に「涙を流す」こともまた大事なことかと想います。時が経つにつれ、重々しさが増してきます。私自身も親しい知人が犠牲になったことを聞く度に、胸がずしんと重くなります。悲しみと涙の中で、いたわり合い、祈り合い、思い遣りをもち、復旧復興への希望を抱き、かけがいのない命をつないで参りたいと想います。

いかなる慰めの言葉も失っている今、私たちにできることは、聖書の言葉に耳を傾けることしかありません。使徒パウロは述べます。「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたに耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道も備えていてくださいます」（コリント信徒への手紙一、10章13節）。

聖書は次のようにも記します。「主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれる」（ヘブライ人への手紙、12章6節）。NHK英語会話の人気講師であった東後勝明氏は『あなたはあなたでいい―あとはイエスにゆだねて』という著書の中で、「心の筋肉を鍛える」と表現しております。

今こそ、神の愛によって与えられた「命」を信じ大切にし、知恵を働かせ創意工夫をなし、闇を照らす希望の「光」を輝かし、思い遣りと「愛」をもって復旧復興の業に励んで参りたいと思います。まさに、日頃鍛錬してきた建学の精神とその実行力が試される時が到来しております。

理事会は東北学院と地域の復興に努力を惜しむことなく、全力を尽くします。皆々様の東北学院の使命へのご理解とその実現のためのご協力に感謝し、なお一層のご援助を賜りますようお願いいたします。